

松陰 show-in

国士館大学附属図書館報
第 21 号
2009 年 7 月

■ CONTENTS

巻頭言

本は真の「教師」なり!

第 4 回選書ツアー

お知らせ/開館スケジュール

寄稿

大淘汰時代「身を守る、
母校を護る、国衛る」

おすすめ本コーナー

本は真の「教師」なり!

図書館運営委員 小口 裕通(イラク古代文化研究所)

学生の皆さん! 松陰第 19 号で、21 世紀アジア学部 of 桑田てるみ先生がみなさんに訴えていることをまず思い起こしてほしい。桑田先生の訴えは、掻い摘んでいえば、大学の「図書館」という飛行機工場をうまく利用して、グライダー人間からエンジンを搭載した飛行機人間、つまり「自分で学習できる人間」に早くなりなさい、というものである。

確かに、皆さんは、高校時代までは教師の教えに従って、教科書や関連参考書に書かれている内容を理解し覚え、そしてペーパーテストを受け、その成績で習熟度の優劣を判断されるという過程を経て大学に進学してきているので、なかには、大学でもそれまでやってきた勉強と同じやり方をすればよいと勘違いしている人もいるかもしれない。しかし、実は、大学での勉強はそういうものではないのである。自ら何かを調べ、自ら考え、自ら前に進んでいくのが大学での勉強である。

例えば、英国では、そのような考えが教師のみならず学生の間にも浸透している。英国の大学では、教師は学生に対して teach という言葉を使わない。その代わりに help という言葉が使われる。つまり、英国では、大学の教師は、学生に何かを教えるのではなく、学生自身が自ら何かを調べ考えていくための手助けをする、いわば「道しるべ」にすぎないのである。学生自身もそれを承知しており、大学生活の大半の時間を図書館で過ごすのが当たり前のこととなっている。もちろん、論述式の筆記試験が英国にもある。ただし、授業では細かい知識を授けるというようなことはなく、その代わりに数多くの参考文献の紹介が行われるのが常であり(語学の授業は例外)、学生は図書館で自らそれらの参考文献と格闘しなければ、試験でのよい成績を収めることができないようになっている。筆記試験においてさえも、自ら調べるのが要請されるのである。

今から二十数年前に、ドイツの大学の、ある先生(メソポタミア考古学の権威者の一人)を訪ねたことがある。そのとき、当時研究していた内容について、様々な質問をその先生にしたのだが、返ってくる答えは、答えそのものというよりも、それについてはこのような参考文献があるというものであった。しかも、それが、湯水の如く出てくるのである。そして、そのとき、その先生がポツリと言った言葉を今でも鮮明に覚えている。

「本が真の教師なんだよ。

だから、あなたの前には無数の教師がいるんだよ。」

>>>NEXT PAGE

ドイツの大学でも、英国と同じで、学生は教師よりも本自体から学ぶのが当たり前のことであるということを、そのとき、再認識させられたのである。

では、話をもとにもどそう。たぶん、学生の皆さんのなかには、高校までの勉強のやり方から大学での勉強のやり方に、どのように切り換えたらよいか、わからない人がいることだろう。

話は簡単である。まず、何でもよいから、何かに興味をもつことが、とにかく最初である。それは、何でもよい。それから、次に調べてみることだ。本当に興味があれば、それほど調べることに苦痛は感じないはずである。このとき、本当に興味があるかどうかについては、自然と自分の心に問いかけることになる。見せかけの興味であれば、調べていく途中で挫折することが多いものだ。

また、高校までの勉強では、無理して覚えるというようなことがあったであろうが、次は、無理して覚えることをやめることである。言い換えれば、無理して頭のなかに知識を詰め込まないようにすることである。無理して詰め込んだ知識は必ず忘れるし、また応用がきかないことが多い。では、どうするのか。要するに、興味あることを複数の本を読み調べていくわけだが、一冊ごと中身を理解したら、「座右の書」として辞書代わりに使うのである。忘れたら、それをもう一回みればよいのだ。何回でも見直すことができるのが本の利点なのである。そうしていくうちに、辞書として使う「座右の書」が増えていき、そして、それを何回かみるうちに、必要なことがごく自然と頭のなかに刻み込まれていくことになる。

ものごとを調べることをリサーチ (research) というが、一回でもこのようなリサーチを経験すると、そこから派生的に興味は広がっていくものである。また、社会に出たとき、リサーチの経験はあらゆる職種で役立つものとなるであろう。

さらに、リサーチを進めていくと、情報の選択が如何に重要であるかもわかってくる。現代社会は、本だけでなく、インターネットやマスメディアを通じての情報が氾濫している。そのような状況のなかで、これからは、そのなかから自分に有用な情報を如何に選択するかという能力が必要となってくることは言うまでもあるまい。リサーチの過程では、そのような「選択能力」も自然と養われていくものなのである。ここまでくれば、しめたものである。今度は情報の真意や是非を自ら判断できるようになっていく。例えば、本でいえば、「眼光紙背に徹する」ということばがあるが、そこに書かれた内容をそのまま信じるのではなく、真意を見抜くように、あるいは批判的にみるように、頭が働くようになっていく。そこに、リサーチすることの「楽しさ」が生じることにもなる。また、「選択」と「真意の見ぬき方」、共に個人個人によって異なることは当たり前のことで、そこに個々の独自性がでてくることにもなる。つまり、リサーチは「世界で唯一の自分」をみる手段でもあるのだ。

繰り返して言おう。学生の皆さん！ 早いうちに、勉強方法をリサーチへと切り換えてほしい。皆さんの前には、無数の教師(=本)がいることに、また早く気がついてほしい。

昔もそうであったように、今でも大学の真の中枢・土台は「図書館」である。図書館自体、大学ではそれほど目立たない存在だが、図書館の充実度が大学の真の良し悪しを決める目安といっても過言ではない。今後の図書館のより一層の充実と、図書館を利用して自らリサーチする学生が増えることを今ここに切に望んでやまない。

(おぐち・ひろみち＝メソポタミア考古学)

第4回 選書ツアー

■ “学生バイヤー”による選書ツアーを実施

紀伊国屋書店で 195 冊選んでいただきました。皆さんのご利用をお待ちしています。



▲ 学生座談会のようす。真剣な眼差し！



▲ 明日の選書ツアー頑張るぞお～！

…～ 一冊でも多く伝えたい ～…

2009 年

6 月 20 日、本学では恒例となった選書ツアーが紀伊国屋書店新宿本店で実施されました。本企画は毎回大変好評で、本学学生以外の利用者さんからも「選書ツアーで選ばれた本はいつ入りますか？」と訊ねられるようになり、ツアーに対する関心の高さがうかがえます。今回もツアー前日に実施説明会(学生座談会)を開催し、参加学生による選書方針から、ひいては今後の図書館の更なる発展への提言まで、学部・学年の枠を越えた活発な意見交換が行われました。学生座談会のようすは図書館HPのお知らせに、「学生選書ツアー 図書リスト」とともに紹介いたしますのでご覧下さい。

3

…～ 新たな出会い ～…

書店

での選書は熱中して探していると、2時間という時間は、あっという間に過ぎてしまうようで、戻ってこられたときに「忙しかったです(^_^;)。」と汗汗で語っておられました。又あまりの本の多さに探したい本が見つからないなどの意見もあり、今後の課題となりました。

図書館企画は、学生時代に授業以外で打ち込めることのひとつとして、皆さんから大変喜ばれています。次回はあなたがチャレンジしてみませんか？(^_^)/

第1司書課 古川清子



▲ 皆さん楽しみに待っていてくださいね！

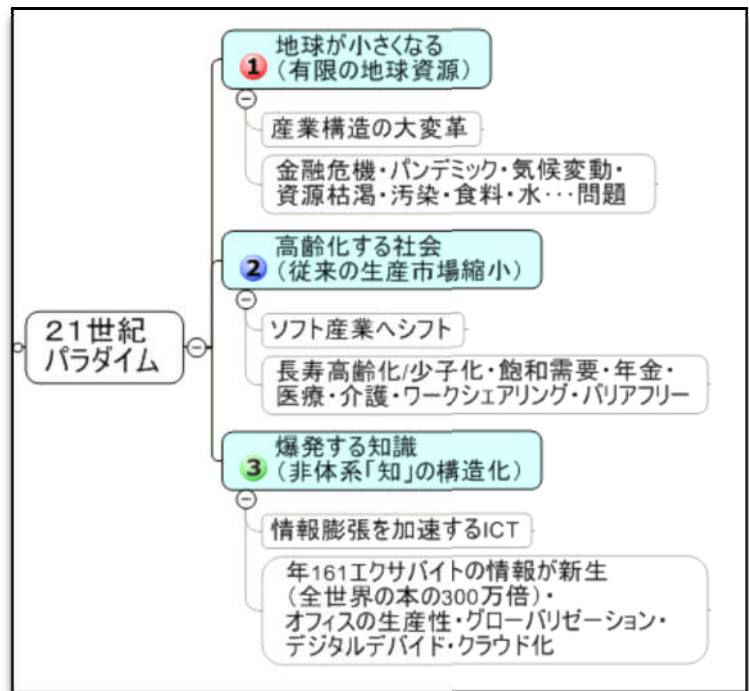
大淘汰時代「身を守る、母校を護る、国衛る」

植田 英範

ホテルオークラで開催された企業トップセミナー（主催：日経 BP／1～3 July 2009）を聴講した。この時季数年間の恒例になっている。元気な一流企業 20 数社トップの話は、さすが多くの示唆に富み、「雑魚の魚（とと交じり）」でも、学ぶところ多い。

3つのパラダイムシフト（図）への各社の時代対応がメインテーマだが、同じ環境を生き抜かねばならぬ大学や教育現場が妙に縁遠く感じた。

大学もグローバル化で、外国留学・国際交流だけではなく、既に人件費の安い国への教材や各種プログラム発注、資金の豊富な中近東への大規模研究室・キャンパス創設などの流れが出ている。高齢化による低消費時代に入って、内需型産業の未来は暗く、グローバルマーケットでネットやメディア向けソフト産業へシフトしている。米国ハリウッドをモジって、ナリウッド（西アフリカ・ナイジェリア）とか、ボリウッド（インドのムンバイ）と呼ぶ、むしろ新興国で GNP を押し上げる大型産業に成長した。この好例である。加速する情報膨張が検索エンジン偏重を招き、オフィスの生産性を低下させた。そこで、「知」の構造化が叫ばれ始めている。これらは、大学の中で旧知である、が、少子化・淘汰の陰で、本質的な対応が後手に廻り、動きが鈍い。



本学附属図書館は、2003 年から学術リポジトリサービスを展開しているが、これは本学教育研究環境の「知」の体系化の基盤である。冊子の長所を認めつつ、デジタルの利点を最大限採り入れ、知的生産活動を効率化して「役立ち感」の高い大学にする狙いもあった。特に「パーソナル kiss」は、自己に最適化された情報源をクラウドに置いて、ユビキタスに編集できるという創作支援のコアサービスだ。企業大淘汰時代に突入し、個々人の体験に根ざす「知」の再編・体系化・パーソナライゼーション支援の重要性は、企業トップが「死活は人材にあり！」と、こぞって力説するところだ。散在する情報を体系化できれば、言わば一冊の「本」と同じ効用だ。データで学習し、価値を創造する時代へのシフトだ。そして、個々人の知的生産性は、組織や国家の死活問題である。が、サービスの利用状況からして、この大事を大学全体が気づいているとは、未だ思えない。

鈍感力という言葉が流行ったが、政治の世界ではどうであれ、教育研究においてのそれは「大学力」と相反する。

（うえだ・ひでのり＝図書館事務部長）



お知らせ

■「鶴川図書館」の臨時休館

本年 6 月 23 日に「町田キャンパス」において新型インフルエンザ発症者が1名確認され、**6 月 24 日(水)～6 月 30 日(火)**の間、町田キャンパスは休講となりました。それに伴い、鶴川図書館も同期間中休館しました。

■夏季休暇貸出を始めます。～冊数は通常の倍！

※対象は、本学学生のみです。

■学部生

受付期間：平成21年7月31日(金)～9月10日(木)

返却期限：平成21年9月25日(金) ※ただし、9月卒業予定者は、9月7日(月)とします。

貸出冊数：10冊 ※ただし、9月卒業予定者は、5冊とします。

■大学院生

受付期間：平成21年7月31日(金)～8月24日(月)

返却期限：平成21年9月25日(金) 貸出冊数：20冊



開館スケジュール (8～9月)

■中央図書館

8 月 8 日(土)～9 月 12 日(土) 9:20～16:40

※8 月 22 日(土) 9:20～14:40

9 月 14 日(月)～ 平常開館

■鶴川図書館・多摩図書館

8 月 8 日(土)～9 月 12 日(土) 9:20～16:40

9 月 14 日(月)～ 平常開館

■休館日

8 月 12 日(水)～8 月 15 日(土) 一斉休暇のため(全館)

8 月 22 日(土) 鶴川図書館停電のため(鶴川図書館)

8 月 26 日(水)～8 月 29 日(土) 館内清掃のため(中央図書館)

8 月 27 日(木)～8 月 29 日(土) 館内清掃のため(鶴川図書館)

※変更になることがございますので最新の情報は図書館ホームページをご確認ください。

金<勉強の役には立たないおすすめ本コーナー



『ピクトさんの本』 内海慶一著 ビー・エヌ・エヌ新社 (中央1階)

皆さんはピクトさんって知ってました？ 街で見かける、みなさんに危険を知らせるために痛い思い(?)をしているのがピクトさん。こんなにたくさんのピクトさんご苦労様です、と思わずにいられない1冊です。(Y)

『日本の現代アートをみる』 高階秀爾著 講談社 (鶴川3階)

現代アートってなんだか難しそう……とっていませんか？ そんな方のために現代作家の代表作品をわかりやすく解説してくれています。これを読んで芸術の秋の予習をしてみてもいいかがでしょう？(K)

6

＊

「松陰 show-in」は、PDF ファイル形式のみで発行しており、図書館オリジナルサイトよりご覧頂けます。

図書館オリジナルサイト <http://libw01.kokushikan.ac.jp/hp/Main.html>

＊

今後、送信を希望される方は、以下のアドレスからご登録ください。

libsyoin@kokushikan.ac.jp

＊

編集後記

梅雨も明けすっかり夏ですね。大学の中庭を望むと学生の賑やかな雰囲気が伝わってくるようです。まもなく試験が始まり、その後は夏休みがやってくるというわくわくする活気があふれています。図書館も異動があったりと、また新鮮な空気が流れ込んできています。「松陰」編集の達人 M さんも異動され、残された編集委員としては手探り状態ですが、何とか繋いでいきたいと思っています。(S)

国士館大学附属図書館報「松陰 show-in」

第 21 号

2009 年 7 月 30 日発行

発行：国士館大学附属図書館

編集：「松陰」編集委員会

〒154-8515

東京都世田谷区世田谷 4-28-1

Tel.03-5481-3216

Fax.03-5481-3214